

第1部 表面実装対応! 正しいはんだ付けの教科書

Special
インタビュー

宇宙に届け! 日本のはんだ付け技術

名人の
手仕事!

肥後 信嗣

「はんだ付け」と聞くと、どんなイメージでしょうか。部品が小さくなって自動機がやっている、人間の出番がない、そんなイメージですか？

とんでもないです! まだまだ人間の手で行わないと成り立たない重要な分野があります。その1つが宇宙分野(写真1~写真3)です。2018年1月、イプシロンロケット3号機の打ち上げが成功しました。小惑星探査機はやぶさは、全世界に驚きと感動をもたらした大プロジェクトでした。

日本の宇宙プロジェクトを陰で支えている、はんだ付け職人がいます。その代表的存在であるNECスペーステクノロジーの斎藤 克摩さん(写真4)にお話を聞きました。

宇宙機器のはんだ付けの特徴

- 部品1個で高級車を買う…失敗が許されない

宇宙機器用電子基板は、1個で高級車を買うような高価な部品を扱います。失敗が許

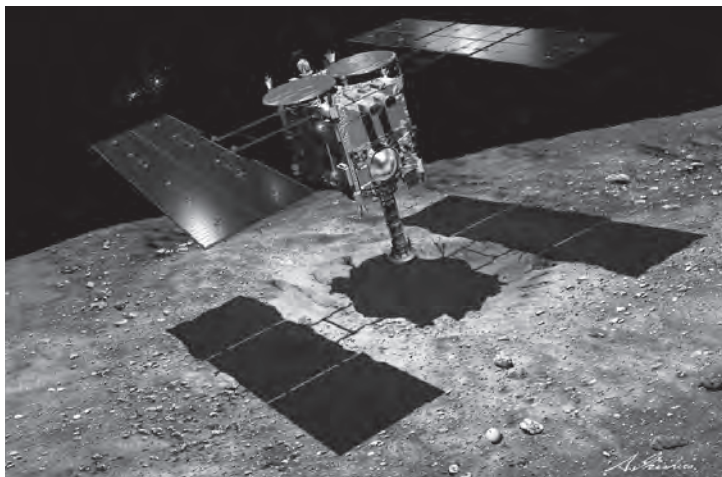


写真1 小惑星「リュウグウ」との往復航行をする探査機「はやぶさ2」(イラスト:池下 章裕)

斎藤 克摩氏は115枚の基板、10万カ所以上のはんだ付けを担当した